

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：海老名市障害者第一デイサービスセンター	種別：障害者多機能型事業所 (生活介護、就労継続支援B型)
代表者氏名：林田 容	定員(利用人数)：40名(30名、10名)
所在地：〒243-0424 海老名市社家5-8-16	
TEL：046-237-3055	ホームページ：http://hoshiyakai.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1994年4月1日	
経営法人・設置主体(法人名等)：社会福祉法人星谷会	
職員数	常勤職員：9名 非常勤職員 8名
専門職員	サービス管理責任者 1名 強度行動障害研修修了者 3名
	社会福祉士 2名 看護師 1名
	介護福祉士 1名
施設・設備の概要	作業室3、食堂兼作業室1 休養コーナー、会議・面談室、厨房
	七宝焼きコーナー、浴室

③理念・基本方針

<p><法人の理念></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性を輝かせるために ☆ノーマライゼーションの理念の実現 ☆地域福祉の充実 ☆人権尊重と利用者主体の支援 ☆質の高いサービスの提供 <p><職員行動指針 支援の実践にあたって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者主体の支援「本人の力、ストレンクスを信じて、一人の人として」 ・自己決定・意思決定支援「職員の価値観、一方的な見方ではなく」 ・コミュニケーション「情報交換、話しあい、一緒に考えたい」 ・プロフェSSIONAL「利用者はサービスのユーザー、心地よいサービスをめざして」 ・自己研鑽「振り返り、向き合う、予測と意識」 ・ゆとりを持つ「冷静に、丁寧に」
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>○「はたらく」「つくる」「たのしむ」「つながる」をコンセプトに、様々なハンディキャップを持った人たちが、得意なことを活かし仕事や行事などいろいろなことをしながら、「その人らしく」地域の中で豊かに暮らせるよう支援している。職員は常に笑顔で利用者に接し、利用者の笑顔に触れることを働きがいと感じて支援にあたっている。</p> <p>○七宝画を以前から取り入れ、専門家の指導の下、絵付けをして事業所の窯で焼き、作品を展示会に出展したり、自主製品として販売している。また、食品加工「ことこと屋」では、地域で生産したイチゴやブルーベリー、トマトを使ったジャムやクッキーを作り、地域に販売している。利用者がその人に合った活動を自分で選び、</p>
--

楽しみながら活動できるよう取り組んでいる。職員は日中活動の支援だけでなく、受注作業拡大のため一般企業に連絡を取り、利用者の作品の商品化を考えている。現在、段ボールの組み立て、チラシ折り、タオルの検品と配送、シール貼り、除草などの作業や、ダンスや旅行、レクリエーション、クラフト、カラオケ、散歩、買物などの余暇活動を用意している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日）～ 2023年2月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○海老名市障害者第一デイサービスセンター（レインボードリーム）は、市の指定管理を受け、知的障害者を中心に、3障害の区分に関係なく広く障害者を受け入れ、生活介護事業と就労継続支援B型事業を提供している。利用者は1、2階の作業室にて、作業や余暇活動に取り組んでいる。

○利用者の個性や人権、自主性、選択、決定を大切にしている。今日はどの活動を行うか、朝、昼の利用者ミーティングで、今日の活動内容がホワイトボードに写真やイラスト、文字を使用し提示されている。自分のやりたい活動の下に名前の札を貼って意思表示をしている。

○昼食はお弁当を注文するため、写真や価格、カロリー表示のあるメニュー表を見て、利用者が今日食べたいものを自分で選んでいる。昼食は、2社の業者のお弁当を利用している。摂取カロリーに配慮したお弁当や、ボリュームのあるお弁当、麺類については固形燃料を使い温め、熱いものを提供するなど、メニューはバラエティに富んでいる。個々の状態に合わせ、提供前に職員がカットや骨抜きなどを行っている。お弁当の誤配のないよう、個人のカードを作り、ご飯の量、箸、スプーン、ハサミ（カット）など、絵で分かるようにしている。利用者の希望により、工賃支払日には、牛丼の日を設け、皆が楽しみにしている。

○買物に行きたいという希望のある方には、近くのコンビニに職員と一緒に出かけ、好きなものを購入している。食品選びやお金を出しての購入、レシートをもらうことなど、最初の頃は職員と一緒にいたが、回数を重ね職員はコンビニの外で待ち、利用者が一人で買物ができるよう取り組んだ。自宅などで買物に一人出かけることができた。

○作業場面でも、職員がチラシ折りを2～3回やって見せて、できるようになる方もいるが、困難な方には職員が数枚重ねて折り、それを1枚ずつ出して折る作業に変更したりして、その方のできる方法で支援をするようにしている。

○内容や発音が不明瞭な場合もあるが利用者の7割ほどは、言葉でのコミュニケーションを取ることができる。言葉の出ない方もいるが、職員が脇に座り、話しかけながら表情を見て、理解しているか、楽しいと感じているかなどを確認しながら、その方の好きな話をしたり、興味のあることを話して関係作りを行っている。

○職員はいつも利用者、言葉やジェスチャーを交えたり、写真やイラスト、筆談、ボディランゲージなどを通してコミュニケーションをとっている。自閉症の方のクレーン現象（他人の手を取って物を指したり、取ろうとする行為）などに対しても、何を要求しているのかを理解しながら対応している。

○利用者自治会を定期的に関催して、利用者同士のコミュニケーションや意見交換ができる場を設けている。毎日の終礼では、その日行ったこと、活動はどうだったかなどを皆の前で話す機会も設けている。意思表示が困難な方には、職員が「はい」「いいえ」で答えられるよう質問の仕方を工夫したり、写真やイラストなどの選択

肢を用意して支援している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審の過程で、評価項目をもとに現在提供しているサービス内容の振り返りを具体的に行うことができました。サービス提供の課題等を客観的な視点で捉え直し、改めて職員間で共有し、利用者の皆様のQOL向上の為に「取り組むべきミッション」の見える化の一助となりました。

また、課題の明確化だけでなく、職員や事業所の頑張りにも視点を当てられたことは利用者支援を継続していく上での職員のモチベーションとなり、指標になったと思います。

サービスについて、客観的な視点で総体的に議論ができ、職員の捉え方の違いを改めて確認できる機会となりました。

今後もサービスの維持、向上ができるよう、継続して取り組んでいきたいと考えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり